

エコサイクルセンターの特徴や安全性などについて

- 1 埋立場に屋根を設けている被覆型と呼ばれる最終処分場です。屋根で覆われているため、廃棄物の臭いや飛散により周辺環境に影響を与えることはありません。

また、鳥獣等が自由に入出入りできないため、鳥獣等により施設が損傷されることがありません。

新たな管理型最終処分場も、屋根を有する被覆型を予定しています。



エコサイクルセンター全景写真：(公財)エコサイクル高知提供

- 2 屋根で覆われていることから人工的に散水し、廃棄物の安定化を促進しています。散水した水は、施設内で処理を行い天然水並みの水質に浄化したうえで、散水に再利用（循環）しています。このため、処理された水を施設外に放流することなく、周辺の水環境に影響を与えることはありません。

新たな管理型最終処分場も、処理水は無放流として、場内での循環利用を予定しています。

- 3 散水した水が、施設外へ漏れ出すことが無いように、最終処分場の底面と壁面を遮水構造としています。具体的には、底面は、ベントナイトと呼ばれる粘土と土を混合した厚さ50cmの遮水層と、その上部に遮水シートを2枚敷設して、3重の遮水構造（国の基準は2重の遮水構造）としています。壁面は、コンクリート壁と遮水シート1枚による2重の遮水構造です。

また、最終処分場の下部を流れる地下水の水質を常時確認しており、エコサイクルセンター開業からこれまでの間、異常は確認されておりません。

- 4 埋立廃棄物を搬入するための運搬車両（ダンプトラック等）の通行は1日平均で8台程度です。また、(公財)エコサイクル高知が搬入元への安全運転指導を徹底しています。

- 5 開業以来、施設におけるトラブルや事故も起こらず、順調に運営されてきていましたが、平成28年8月から9月の間に2度にわたり、廃棄物からの発煙事象が発生しました。

このうち8月の発煙事象により、壁面の遮水シートの一部が損傷しましたが、散水した水は施設外に漏れ出すことなく、地下水への影響もありませんでした。損傷箇所については、損傷した遮水シートの周囲と遮水シートの外側にあるコンクリート壁に劣化がないことを確認したうえで修復を行っております。

なお、専門家や消防機関などからの助言もいただきながら、考えられる再発防止策を講じてきており、その後の発煙事象は発生しておりません。

今後についても、再発防止策を確実に実践することにより、施設の安全管理に一層努めることとしています。

※ エコサイクルセンターでは、施設の見学ができます。見学を希望される方は下記に直接お問い合わせください。

●公益財団法人エコサイクル高知

〒781-2164 高岡郡日高村本村字焼坂659番1

電話：0889-24-6210 Fax：0889-24-6212

ホームページ：<http://www.ecokochi.or.jp/>